



——日本共産党 北海道議会議員——

丸山はるみ いきいき通信 No.25

道政報告
2025年6月号






ホームページ

Facebook

X (旧 Twitter)

Instagram



知らせよう ～子どもの権利条約より～ 「権利の主体は子ども自身」

子どもの権利条約は、子どもの人権（権利）を定める条約として、1989年11月20日、第44回国連総会において採択されました。「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「意見表明権」「差別の禁止」の4原則などが基本理念とされ、あらゆる「子どもの権利、の実現を考える時に合わせて考えることが大切とされています。



特別委員会で質問する
丸山はるみ道議

道の条例では子どもの権利条約の4原則を踏まえるとしています。丸山道議は「子どもの権利条約やその理念、なにより、権利の主体は子ども自身であることについて、道民の理解の推進が必要であり、道は効果的な

周知方法を検討するとしていたが、道の条例と計画にどのように盛り込まれるのかと問いました。道は、「新たな条例素案に子どもの権利条約の周知を盛り込むとともに、北海道子ども計画に、道民の理解促進のための啓発の取組を盛り込む」と答えました。丸山道議はさらに、子どもの最善の利益の擁護と意見表明権を保障するため、包括的性教育の推進や子どもコミッションなどの設置について求めました。

2023年4月に政府は「子ども基本法」を施行しました。同法の、子どもの権利擁護などの基本理念を踏まえ、「北海道子ども基本条例」が2025年4月1日に施行となりました。日本共産党道議団はこの間、日本国憲法と子どもの権利条約にのっとり、子どもの人権尊重・幸福追求権の実現をめざす条例として制定されることを求めて、議会議論を続けてきました。2025年1月16日のこども政策調査特別委員会で、丸山はるみ道議が取り上げました。

丸山道議は、「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」への相談件数が増加していることをあげ、これまでの性教育のあり方を検証し、包括的性教育推進のための調査研究を求めました。

道は、「市町村や地域の学校などと連携し、思春期における性と健康の問題をテーマとした会議や、研究会に取り組んできた。これまでの健康教育の充実を図る」と答弁。

道は、「市町村や地域の学校などと連携し、思春期における性と健康の問題をテーマとした会議や、研究会に取り組んできた。これまでの健康教育の充実を図る」と答弁。

丸山道議は「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」への相談件数が増加していることをあげ、これまでの性教育のあり方を検証し、包括的性教育推進のための調査研究を求めました。

包括的性教育の推進を！

子どもコミッショナー
など第三者機関の窓口を

いじめの認知件数は2023年度、4万8000件と過去最高です。ヤングケアラーでは、悩みを相談したことが無いとの回答が80%、2〜3割が「相談先がわからない」「家族のことで相談しにくい」と本人が悩んでいる実態と状況を示し、子どもコミッショナーのような、子ども本人が相談することを想定した、第三者機関の窓口の必要性を問いました。

道は「国による、全国の自治体を対象とした相談救済機関に関する調査の結果や国の方針、他県や道内自治体のとりくみや活動実態など情報収集の上で、審議会等の場で議論していく」と答えました。

丸山道議は、埼玉県・長野県での実例を紹介して、北海道の向きな調査研究を重ねて求めました。

～北海道植樹祭で八重桜を植樹～

北海道植樹祭は、1950年から北海道内で毎年開催されるイベントです。森林の重要性を広く普及啓発し、道民が協働で森林づくりを進めることを目的としています。



八重桜を植樹する丸山道議

北海道植樹の日・育成の日の普及啓発を通じて、将来を担う若い世代をはじめとする道民の森林づくりに対する理解を深めるとともに「道民ひとり1本植樹・育成運動」の目標とする500万本の植樹・育成の取組を全道に定着させるため、令和7年度から運動の最終年である令和10年度までは、全道各地で開催することとなりました。

今年、会場となった函館市亀田中野町の「北海道立道南四季の杜公園」では、市民ら約900人がエゾヤマザクラやブナなど5種類の苗木計800本を植樹しました。



社会を変えるムーブメントを広げよう！第96回メーデー開催



1886年5月1日、アメリカのシカゴで8時間労働制を求めた統一ストライキを発端に行われてきたメーデー。1日12～14時間労働が当たり前だった時代に労働環境改善を求めて労働者が立ち上がりました。140年近くたった今でも日本では「8時間労働」の訴えが切実な要求です。連帯を力に労働者の尊厳を守る社会への変革を訴えました。

～被爆80年、核兵器廃絶の願い届ける～

核兵器廃絶と被爆者擁護を訴えて、5月6日北海道礼文島を出発した原水爆禁止国民平和大行進が、21日小樽市に到着しました。さらに広島・長崎を目指す出発式で、丸山はるみ道議があいさつに立ち、核兵器禁止条約を日本政府に批准させることを訴えました。



平和行進に出発する
丸山はるみ道議（右端）ら

～街頭から道政報告～



米価高騰には価格保障と所得補償を国に求め、後継者不足に悩む第一次産業に、さらなる道の支援を訴えました。

ようやく公開再開～旧日本郵船株式会社小樽支店

～4月25日のオープニングセレモニーに丸山道議が来賓として参加～

旧日本郵船株式会社小樽支店が、2020年7月から7年あまりの長期にわたる大規模な補修工事を経て、ついに4月25日から公開を再開し「国指定重要文化財旧日本郵船株式会社小樽支店オープニングセレモニー」が行われました。

1904年着工、1906年10月に竣工したこの建物の設計は、工部大学校造家学科（現・東京大学建築学科）の第一期卒業生・佐立七次郎によるもので、1969年に重要文化財指定を受



当時をしのばせる
1階営業室の机や椅子

けました。

竣工直後にポーツマス条約に基づく日本 - ロシア間の樺太国境画定会議が2階会議場で行われた、歴史の舞台ともなった場所です。

オープニングセレモニー終了後には、小樽博物館石川館長による解説付きの内覧が行われました。当時を思わせる衣装に着替えて記念撮影や、一階営業室の机や椅子に触れることも可能で、小樽の歴史に思いをはせる格好の場所となりました。



大規模な補修工事を終え公開を再開した
「旧日本郵船株式会社小樽支店」



用意された衣装をまとうと
記念撮影も可能

道財政硬直化の原因は道債の返済?!

～党道議団が道議会報告パンフレットを発行しました～



お問い合わせは丸山はるみ事務所へ

「政治とカネ」は北海道でも

道財政に占める借金返済の割合「実質公債費比率」は20・3%と全国ワースト1です。これは90年代の大規模公共事業への道債発行の返済のためで、「厳しい財政」を理由に福祉や子育て支援の予算を抑えるべきではありません。

引き続き追及する道政課題

金パーティについて調査。その結果、政治資金収支報告書の購入者数にパーティ券販売枚数と同数を記載していたことがわかり、後援会は訂正をしました。1枚1万円のパーティ券は、会場収容人数の3倍以上も販売されており、その収入の9割が利益となっていたことも突き止めました。

泊原発の行く末、新幹線札幌延伸と周辺市町村への影響、宿泊税の是非など、道民の声を届けます。